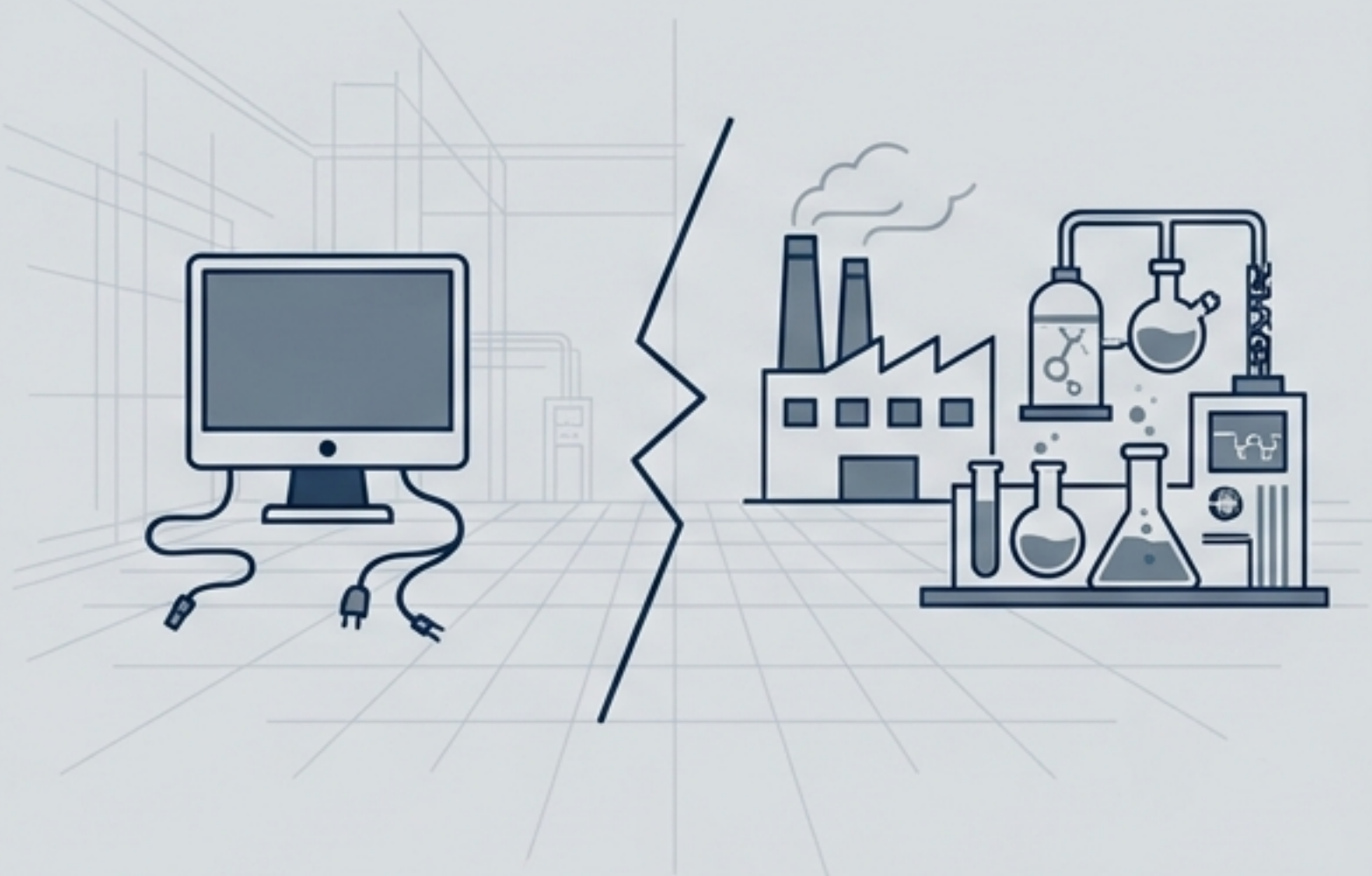


企業知財部・R&D部門における 「生成AI × 知財教育」の 現在地と戦略的ロードマップ

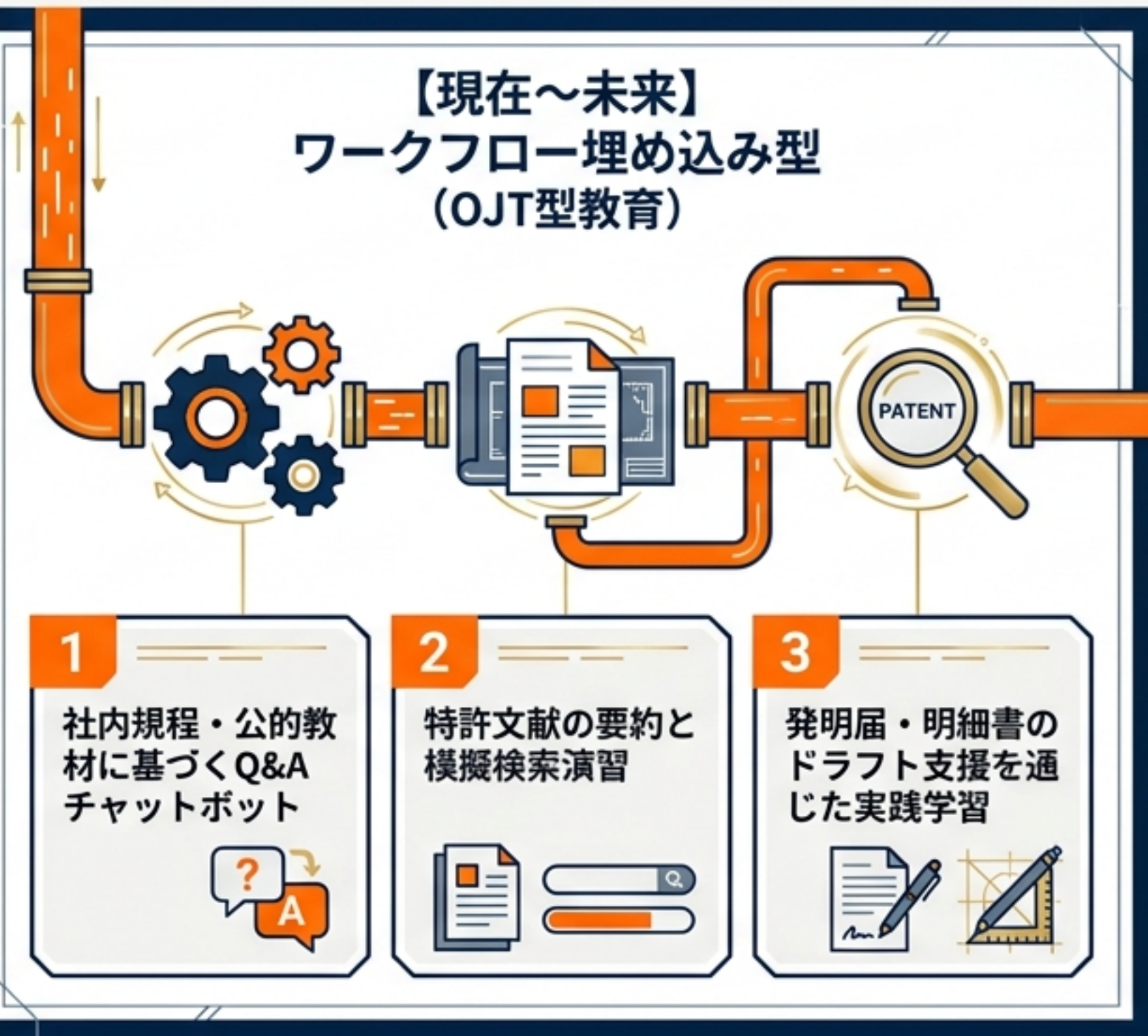
ワークフローへのAI埋め込みによる
実践的リテラシーの構築とガバナンス設計

エグゼクティブサマリー： 知財教育のパラダイムシフト

【従来】独立した教育システム
(座学・eラーニング中心)

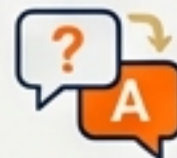


【現在～未来】
ワークフロー埋め込み型
(OJT型教育)



1

社内規程・公的教材に基づくQ&A
チャットボット



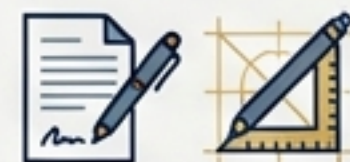
2

特許文献の要約と
模擬検索演習

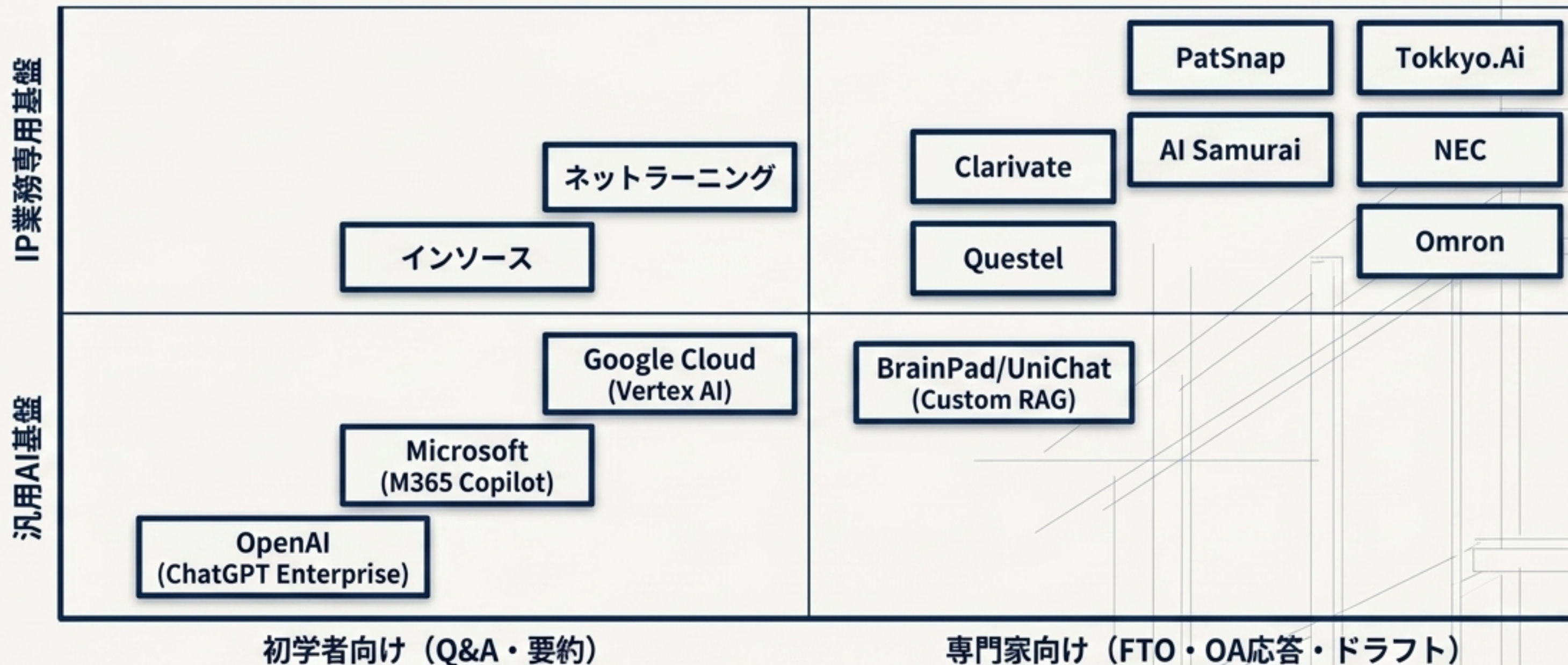


3

発明届・明細書の
ドラフト支援を通じた実践学習



日欧米のトレンドとベンダーランドスケープ

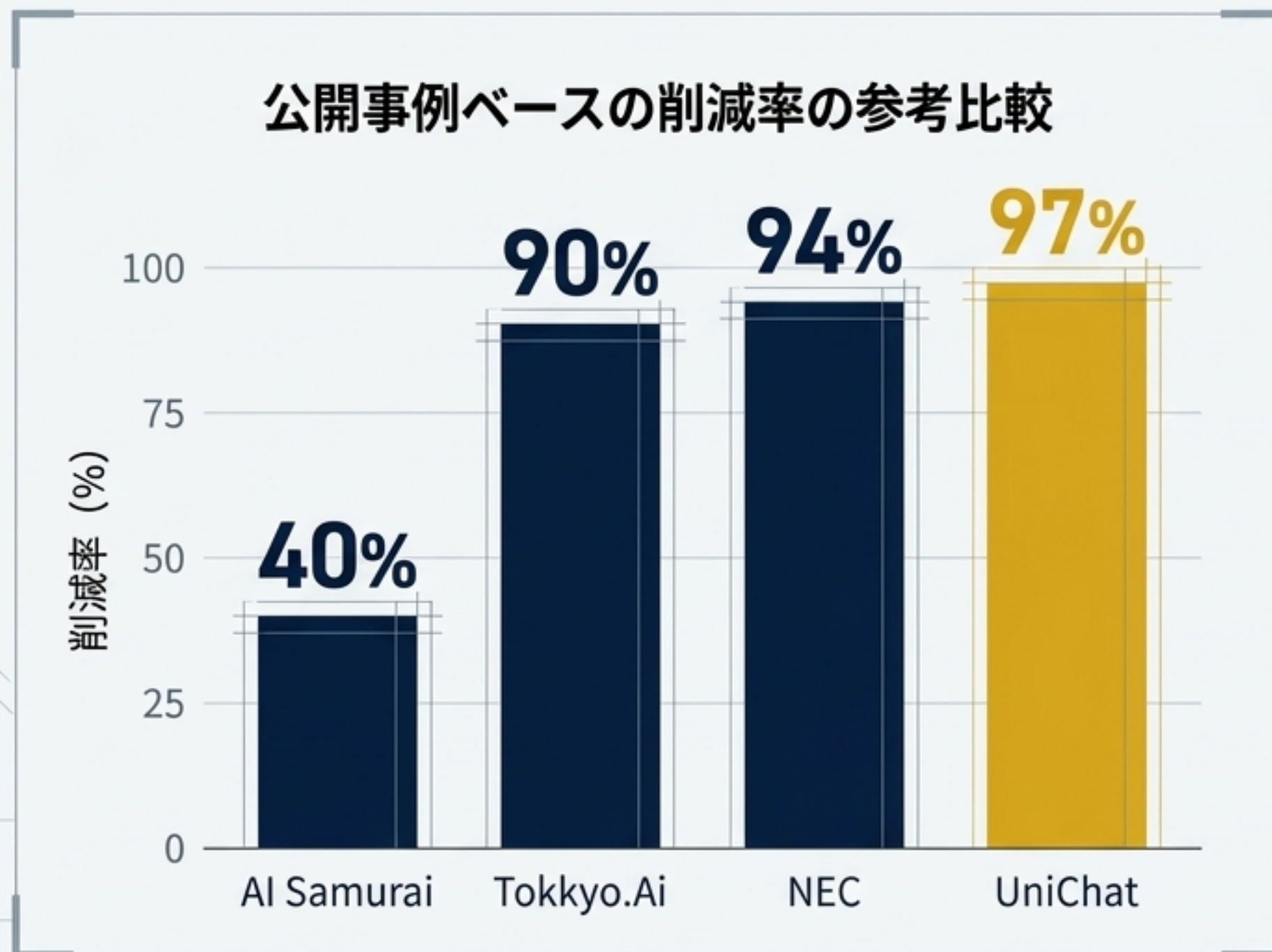


「日本の現状は『知財リテラシー普及』フェーズ。
海外はFTOやOA応答を含む『実務能力の底上げ』フェーズへ移行済み。」

主要5大ユースケースと製品マトリックス

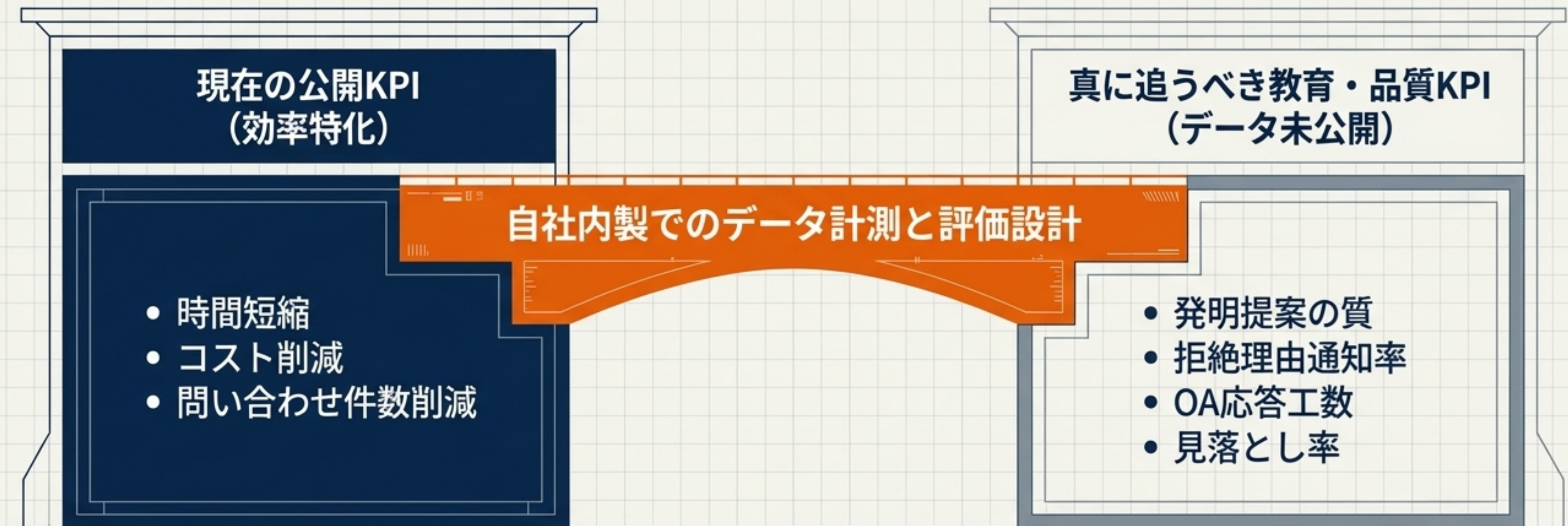
① ユースケース	② 代表ベンダー/製品	③ 教育への適用意義
社内教育コンテンツ生成・Q&A	EduAI, learningBOX	社内規程や競合情報の読解練習を教材化
模擬特許検索・要約	STELLA IP, Clarivate	初学者の長文読解負荷を下げる 「足場かけ」
特許調査・文書作成支援	AI Samurai, NEC	実務手順の形式知化（OJT型教育）
発明支援・発明届ドラフト	Tokkyo.Ai, PatSnap	技術説明を「出願可能な構造」に 変換する訓練
多部門展開・Q&A基盤	UniChat, Google Cloud	全社の知財リテラシー底上げと FAQ自己解決

公開データが示す「圧倒的効率化」の事実



「時間短縮と反復業務（先行文献調査、法務Q&A等）の削減効果は既に証明されている。」

【ギャップ分析】 評価指標（KPI）の致命的な欠落



「公開事例に最も欠けているのは『学習効果』と『出願品質』への因果データ。生成速度ではなく『やり直し回数（差戻し率）』を見るべきである。」

実装を阻む4つの技術的ボトルネック



データ品質

ドメイン適合性の欠如。一般的なLLMではなく、JPO審査事例や社内規程など出典が明確な特許コーパスが必須。



ハルシネーション

専門用語の誤訳や構成要件の欠落。教育時点で誤った理解を植え付ける致命的なリスク。



説明可能性

ブラックボックス化。単なる回答ではなく、「どのどの条文・公報に基づいたか（根拠提示）」が不可欠。



機密漏洩・新規性喪失

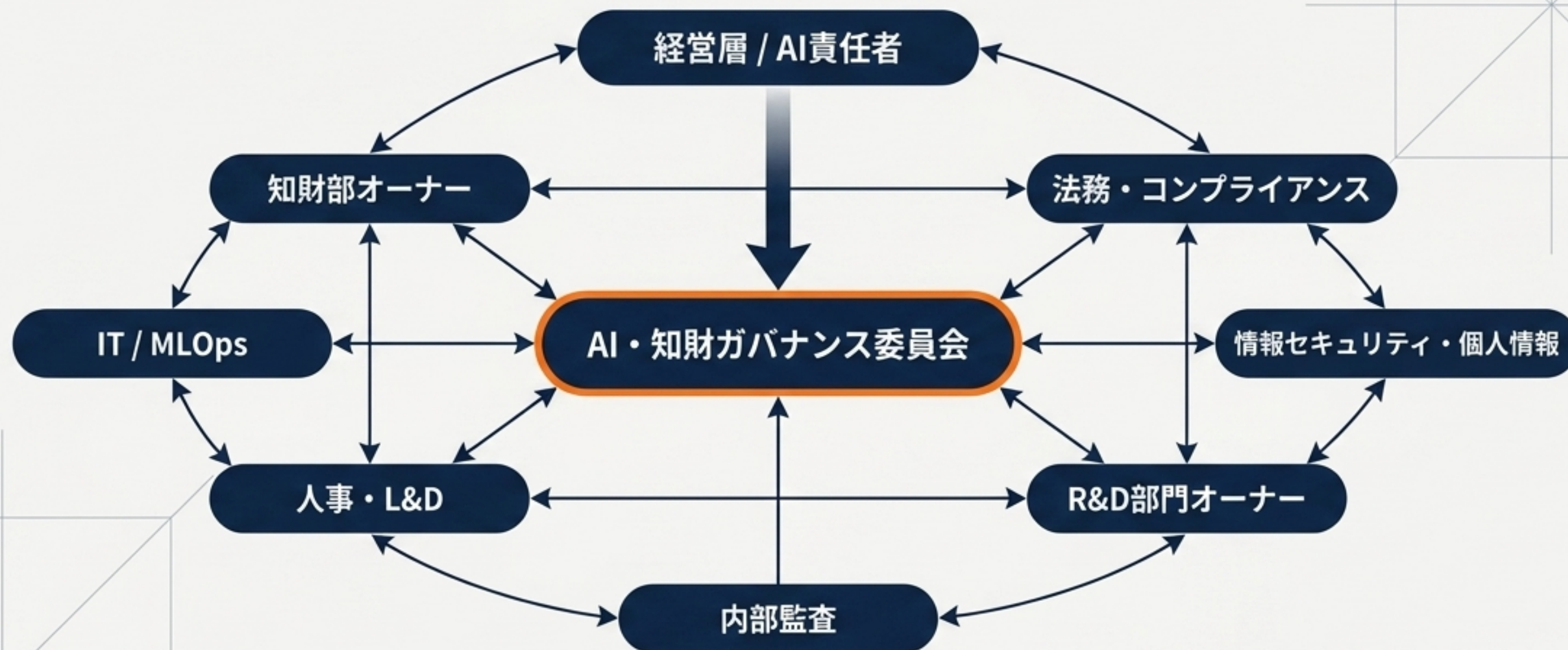
入力統制なしの利用による守秘義務違反リスク。若手・発明者ほど入力統制が必要。

法務・倫理・ガバナンスの絶対防衛線



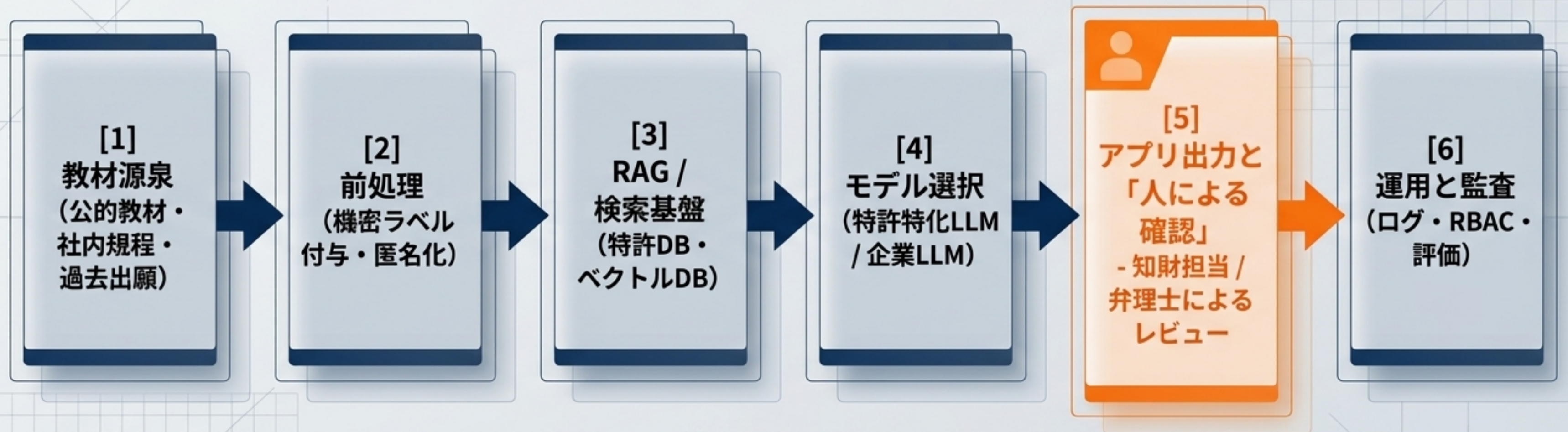
「AIは発明者にはなれない。すべてのプロセスの最終責任は『人』が負う。」

相互牽制を効かせる全社横断ガバナンス体制



「法務やIT単独では成立しない。経営スポンサーの下での相互牽制（牽制と連携）が成功の鍵。」

推奨されるセキュアなシステムアーキテクチャ



「汎用チャットの解禁ではなく、オムロン社事例等に見られる『統制されたRAG基盤』を構築する。」

リスク緩和のための最低基準チェックリスト

利用環境と アクセス制限

[必須対応] 承認済みEnterprise環境のみ使用
/ SSO・最小権限

[必須対応] 秘密情報・未公開発明の入力禁止ルール

RAGと出典管理

[必須対応] 公的教材・承認済み文書のみ接続

[推奨対応] 根拠段落表示・引用必須化

出力レビュー

[必須対応] 対外提出物は人間承認必須

[推奨対応] 「要確認」「根拠なし」のUI表示

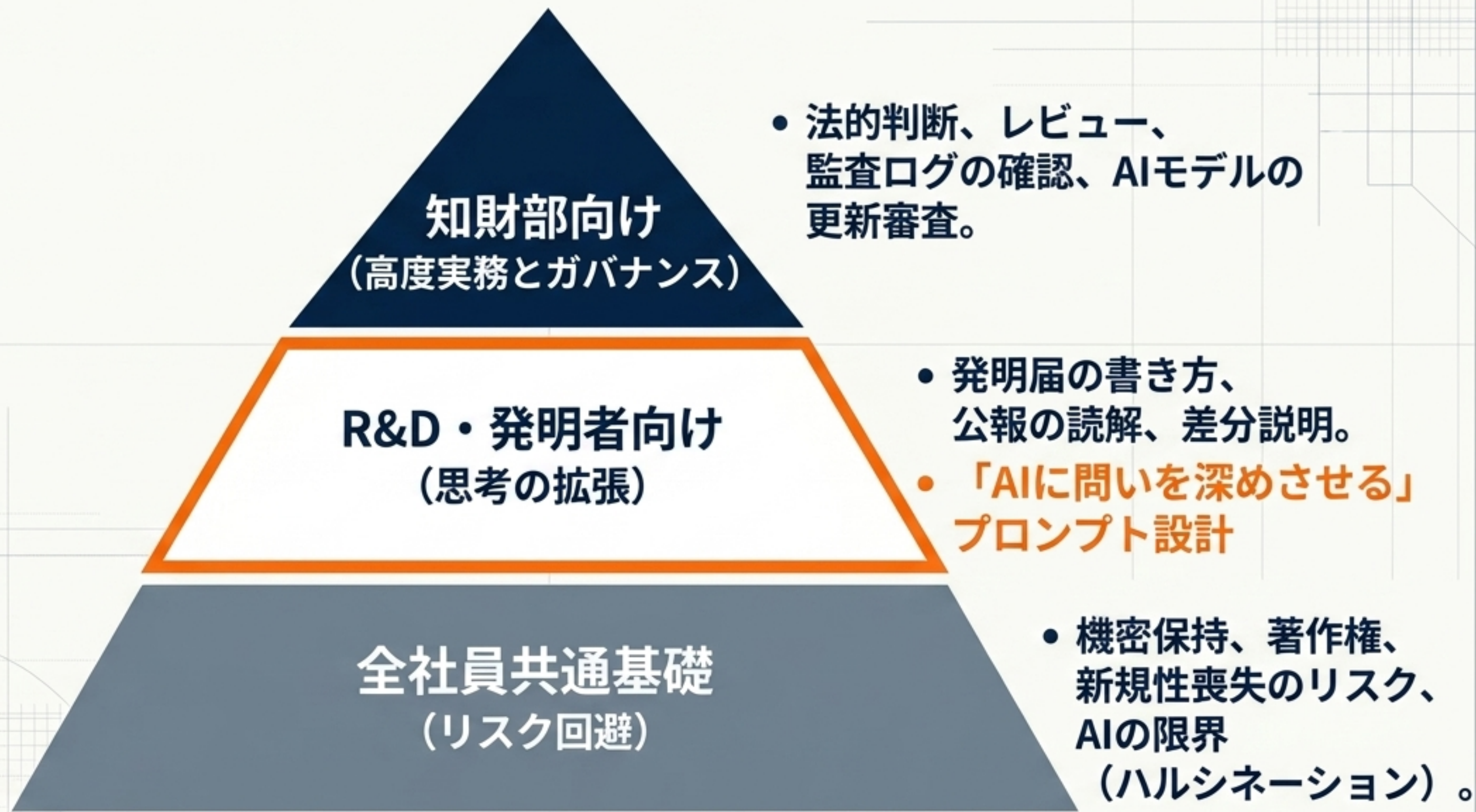
ログ監査と更新審査

[必須対応] プロンプト、応答、利用者、日時の記録

[必須対応] 重大更新前の検証環境でのテスト

「教育目的であっても、若手や発明者ほど入力統制とガードレールが必要である。」

階層別・知財AIカリキュラム設計



展望と推奨ロードマップ（短・中・長期）

短期（安全な着手 - Literacy）

- **Action:**
承認済み基盤への一本化、RAG用教材整備、Q&Aボット・要約のパイロット導入。
- **KPI:**
誤入力事故ゼロ、FAQ自己解決率向上。

中期（教育と実務の接続 - Workflow）

- **Action:**
発明者向け発明届支援、模擬演習、承認ワークフロー実装。
- **KPI:**
速度から「質」への転換（発明届差戻し率の低下）。

長期（エージェント化と監査定着 - Autonomy）

- **Action:**
Office Action補助、FTO一次分析、出願品質KPIとの連結。
- **KPI:**
OA対応工数低下、監査での説明可能性確保。

結語：AI知財教育を成功に導く5つの黄金律

1

【統制】承認済み環境（クローズドな実行環境）へ**一本化**せよ。

2

【根拠】社内規程・JPOデータを中核としたRAGを構築し、
出典付き回答を**強制**せよ。

3

【拡張】発明者には「答えを出させる」のではなく「**問いを深める**」
設計を提供せよ。

4

【証跡】ログ、プロンプト、修正履歴を教育データではなく
「**監査の証跡**」として保管せよ。

5

【指標】時間削減の効率指標から脱却し、差戻し率・出願品質な
どの「**品質KPI**」へ**拡張**せよ。